



RAKUNO GAKUEN UNIVERSITY

酪農学園大学

出会

No. **80** 2019. 4. 4

キリスト教委員会



「あなたの天を、あなたの指の業を わたしは仰ぎます。月も、星も、あなたが配置なさったもの。」

(詩編8編4節)

写真は本学のクリスマスの風物詩となったライ麦の麦藁で作ったヒンメリです(詳しくは6-7頁参照)。ヒンメリはフィンランド語で「天」を意味します。紀元前の旧約聖書の詩編の詩人はその時代の世界観・宇宙観から、天に月や星が貼り付けられていたり、吊されていたと信じていました。この美しいヒンメリを見ていると、古代の人々の想像力に満ちた感性の素晴らしさを実感します。

かけがえのないひとり (ルカ福音書15章4-6節)

—— 宗教の論理と政治の論理 ——

宗教主任・循環農学類キリスト教応用倫理学研究室 小林 昭博

大学で「愛」を見つけましょう

環境共生学類 資源再利用学研究室 押谷 一

ヒンメリの作成を通して、作物生産から芸術創作までを体験する

循環農学類 作物学研究室 義平 大樹

循環農学類 食物利用学研究室 宮崎 早花

大学礼拝への招待

かけがえのないひとり (ルカ福音書15章4 - 6節)

——宗教の論理と政治の論理——



宗教主任・循環農学類キリスト教応用倫理学研究室 小林 昭博

⁴あなたたちの内のある人が100匹の羊を持っていて、その内の1匹を失ったら、99匹を荒野に残して、失った羊を見つけるまで歩き回らないであろうか。⁵そして、見つけたら、彼は自分の肩に担ぎ、喜び、⁶家に戻って、友人たちと隣人たちを呼び集めて彼らに言う、「わたしと一緒に喜んでくれ、失ったわたしの羊を見つけたのだから」と。
(ルカ福音書15章4 - 6節 [私訳])

失われた羊の譬

冒頭の聖書テキストは「失われた羊の譬」(ルカ福音書15章3 - 7節)と呼ばれる有名な聖書箇所の一節です。100匹の羊の内の1匹がいなくなったとき、99匹を荒野に残してでも、いなくなった1匹を捜し出して連れ帰り、友人や知人を呼び集めて、いなくなった羊が戻ってきたことを一緒にお祝いするというものです。

しかしながら、この世界の常識的価値観からすると、1匹の羊のために99匹を荒野に置いておくという内容は尋常とは言えないものだと申せます。なぜなら、いなくなった1匹の羊を捜し出すために、99匹の羊を荒野に残しておくということは、例えその1匹を助け出せたとしても、ほかの99匹の羊を危険に曝すリスクが付き纏っているからです。

譬の原型——伝承史と編集史

失われた羊の譬はマタイ福音書18章10 - 14節に並行記事があり、マタイとルカに共通するQ資料(Q-Quelle)と呼ばれるイエスの言葉資料(Spruchquelle)に遡源する伝承だと考えられます。双方のテキストは内容も語彙も異なりますので、伝承史(Überlieferungsgeschichte)や編

集史(Redaktionsgeschichte)といった歴史学や文献学の方法論を用いて、譬の原型を復元する必要があります。

この譬の原型はマタイよりはルカのテキストに保持されていると考えられ、イエスが語った元来の譬は、100匹の羊の内の1匹がいなくなったとき、99匹を荒野に残して、その1匹を見つけ出すことに至上の喜びを見出すというシンプルな内容だったと考えられます。

譬の歴史的・社会的状況

イエスがこの譬を語った2000年前の地中海世界は、ローマ帝国の支配下に置かれており、地中海東岸に位置するパレスティナのユダヤ世界もその例外ではありませんでした。ローマの過酷な植民地政策によって、「神の民」を自認するユダヤ民族の誇りは打ち砕かれ、民族的アイデンティティを保持するために、ユダヤ人は聖書を中心とする律法の戒律の遵守を規範とする律法主義(契約的遵法主義)を生活の中心に据えていました。しかし、宗教的・社会的な戒律の遵守は、律法を守る者と守れない者との間に優劣を生み出し、律法を遵守するエリートの強者が律法を遵守できない弱者に「罪人」の烙印を押し、宗教的・社会的に排除する事態を惹き起こしていたのです。

確かに、律法遵守には信実な者が棄せられるという肯定的な面もあったのですが、社会的・経済的に困窮する者からすると、生活の一挙手一投足を規定する律法を遵守することなど到底不可能でした。このような歴史的・社会史的状況に「失われた羊の譬」を位置づけると、イエスはこの譬を通じてエリート主義によって「社会から排除された人間」を追い求め、その「ひとりの人間」がいかに大切な存在であるのかを伝えようとしていることが理解できるのです。

宗教の論理と政治の論理

失われた羊の譬は日本でもキリスト教以外の分野において屢々取り上げられてきたのですが、それはむしろイエスの考えが理想論であり、「宗教の論理」にしか過ぎないといった観点からの理解です。評論家の福田恆存は「優れた政治は九十九人を救うが、どうしても救いきれない一人がいる。文学はその一人を救うべき」と語っており、作家の塩野七生は「迷える一匹の羊を探すのは宗教、小説の問題。九十九匹の安全をまず考えるのが、政治、そして歴史の問題。私は後者の世界の住人です」と述べています。

両者の意見は微妙に異なるのですが、いずれにせよ99匹（99人）の安全のために1匹（1人）を見棄てるのが「政治の論理」、1匹（1人）を助けるために99匹（99人）を置き去りにするのが「宗教の論理」、そしてこの現実世界では「政治の論理」が正しく、「宗教の論理」は世迷い言に過ぎないという結論になります。

かけがえのないひとり

この世界で「政治の論理」が正しいとされるのは、わたしたちが99匹の側に自らを置いているからにはかなりません。だが、自分が「失われた1匹」にならないとは限らないのです。いじめ問題などはその典型ですが、99人

のために1人を犠牲にしてきた社会が今まさに問われています。そう考えると、99人を選ぶ「政治の論理」は「強者の論理」でしかないということが分かります。そして、1人を選ぶイエスの「宗教の論理」は、「強者」か「弱者」かという二者択一や人間関係を「99人対1人」の対立として理解しようとする考えを脱構築し、「ひとりの人間」の価値はほかの存在と比較できないかけがえのないものだということを伝えていくということが明らかとなるのです。

近年の市場原理・競争原理を至上とする新自由主義では、100人が横並びで仲良く減ぶより、99人が減んでも1人が生き残れば良いという極論さえも見られます。そして、その波は教育現場にも確実に押し寄せています。しかし、創立以来キリスト教主義を堅持し、三愛精神（神を愛し、人を愛し、土を愛する）に基づき「隣人愛」を大切にしてきた酪農学園大学においては、例えそれが「宗教の論理」や「理想論」にしか過ぎないと言われようとも、「かけがえのないひとり」を大切に続ける温かい眼差しを失いたくはありません。

新入生のみなさんが、自分という「ひとりの人間」が「かけがえのないひとり」として心の底から大切にされると実感できる酪農学園大学であり続けたいと願っています。



本学の羊たち（大学広報センター提供）

大学で「愛」を見つけましょう



環境共生学類 資源再利用学研究室 押谷 一

ご入学おめでとう
ございます。数ある
大学から酪農学園大
学を選び、入学され

たことを心から歓迎いたします。

お祝いに代えて、ひとことメッセージを述べさせていただきます。

Bohemian Rhapsody

みなさんは1970年代に活躍した伝説のロックバンドQueenのメイン・ボーカル、フレディ・マーキュリーの愛と苦悩を描いた『ボヘミアン・ラプソディ』という映画をご覧になりましたか？

この映画は多くの新入生のみなさんの生まれる前の時代のことですが、僕のように半世紀近く前のQueenを知っている世代の人びとをはじめ、若い方の間で大ヒットを続けています。彼らの代表作のひとつ、“Somebody to Love”という曲を通じて少し考えてみたいと思います。僕にとって心に響く大好きな曲のひとつです。この曲の邦題は『愛にすべてを』とされています。

ます。詞のなかにある「心から愛せる人を探して欲しい」というフレーズは、すべての人にとってもっとも切実な願いではないでしょうか。

フレディ・マーキュリーはいわゆるバイセクシュアルで、女性とともに男性も愛していました。現在に較べてバイセクシュアルやゲイに厳しい時代にあって彼はとても孤独であったようです。そのような彼が「愛」をテーマに他のメンバー3人とともに深い情感にあふれた多重コーラスで歌っている、とても素敵な曲です。一度、聴いてみて下さい。

「愛」って何？

みなさんにとって「愛」とはどのようなことでしょうか？現代社会は、市場経済ですべての商品やサービスには価格がついていて、お金さえあれば、どのようなものでも手に入れることができます。ところが、愛はお金では手に入れることのできない数少ないもの、あるいはことかも知れませんが、だれかのことを好きになって、そのひとに振

り向いてもらいたくても、手を握り、みつめて欲しくても、お金ではどうすることもできません。

「愛」と「無関心」

ところでインドの貧しい人びととともに生きた修道女、マザー・テレサは、「愛」の反語は「無関心」であると言いました。カーストという厳しい身分制度の残るインドの最下層にある人びとは、収入を得るための職業につくことはおろか、自由に水を飲むことも許されていません。このような人びとが年をとり、あるいは病気になると、道端で誰にも顧みられることもなく、孤独と苦しみのなかで死を迎えます。マザー・テレサはそのような人びとを自らの施設に招き入れ、静かに死のときを迎えさせることに奔走しました。最下層の人びとに対する愛をもち、関心を寄せてこられたのです。

「三愛主義」の愛

みなさんが入学された酪農学園大学の建学の精神はキリスト教にもとづく「三愛主義（神を愛し、人を愛し、土を愛する）」です。このことについて、創立者、黒澤西藏先生は聖書のコリントの人びとにパウロが送った手紙の一節、「山を移すほどの強い信仰があっ

ても、全財産を人に施しても、自ら焼かれるために泰然と火中の人となっても、真の愛がなければ全ては無益である」ことから発案したと述べています。

愛ということを学び、そして、さまざまなことに関心を持つことは、これからの学生生活にとって最も大切なキーワードであると思います。酪農学園大学には、人類あるいは地球にとって共通の課題である農業、食、環境、家畜や動物のことを学ぶことのできる多くの興味深い研究課題や知的財産をもつ教員、研究室が揃っています。いつも好奇心のアンテナを伸ばしてキャンパスのなかを歩き、講義を受け、議論して下さい。必ずあなたが関心をもつことが見つかるはずです。そしてそれは、地球や人類に対する愛に昇華していくことになることと思います。

さあ、一緒に「愛」に出会う大学での生活を楽しんでいきましょう。



仲間とともに（大学入試広報センター提供）

ヒンメリの作成を通して、作物生産から芸術創作までを体験する

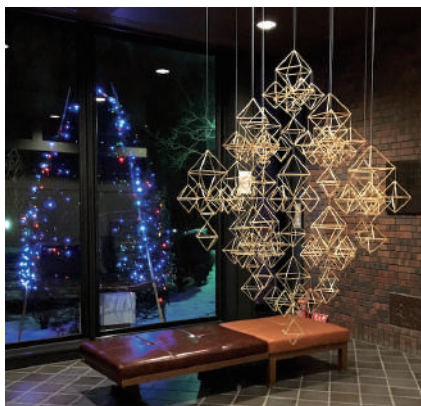


循環農学類 作物学研究室 義平 大樹

循環農学類 食物利用学研究室 宮崎 早花

ヒンメリ（麦わらの装飾品）ってご存知ですか？

皆さん、ご入学おめでとうございます。循環農学類の作物学研究室の義平と食物利用学研究室の宮崎と申します。さまざまな新しい人との出会い、学問との出会いに夢膨らませている人も多いと思います。下の写真のヒンメリをご存知ですか？ヒンメリとは、作物の豊穰を願って作られている北欧フィンランドの伝統装飾品です。本学では、11月末のアドヴェント（待降節）からクリスマスの期間、黒澤記念講堂においてヒンメリを展示しております。麦わらと糸のみで作成した質素なものですが、細かいわらを組み合わせさせた繊細さと幾何学的な配置のダイナミックさを併せ持つ不思議な魅力があります。軽い麦わらでできているため空気の流れてゆっくりと回転しながら光を反射する所は、独特の神秘性があります。



伝統的なヒンメリの材料ライ麦は、従来小麦畑の雑草だった

このヒンメリは全国的にプラスチックのストローで作成するのが真ブームになっていますが、伝統的な真のヒンメリはライ麦という特殊な麦でつくられます。ライ麦は中央アジアを起源とする日本では珍しい麦です。4,500年前頃まで、みなさんが毎日食べている小麦の中に混ざってくる、やっかいな雑草でした。しかし、ライ麦は冬の寒さを乗り越える力（耐寒性）、乾燥した気候にも耐える力（耐乾性）に優れた、ストレスに強い雑草です。そこで、人類はアフガニスタンの高地や北欧などで、小麦が全滅してしまうような寒い気候や乾燥条件でも枯れることが少ないライ麦を小麦栽培の限界地帯の作物として利用するようになりました。ライ麦は雑草出身ということで、現在でもワイルドなたくましい部分と、作物としては洗練されていないもろい部分の両面を持っています。

開花期（6月下旬）



ライ麦のわりに芸術性があるなんて！

ライ麦を栽培する上で、長いわらを短くする栽培方法の開発と品種改良が最も重要と考えていた所、ヒンメリアーティストの山本陸子さんから「ライ麦の細く長いわらでなければ、繊細かつ迫力のあるヒンメリの作成は難しい。ライ麦わらは芸術性の高いヒンメリをつくる上では貴重な材料です」とお聞きし、眼からウロコの思いがしました。そこで、ヒンメ

りの作成に適したライ麦わらが毎年、ふんだんにキャンパス内で生産されているなら、これを「農産物利用学実習」で生かし、山本さんのデザイン・装飾方法に関するご指導のもと、履修学生がつくった小さなヒンメリを結びつけて、大きな作品を作成し礼拝堂に飾ろうと、ヒンメリプロジェクトが始まりました。私達は日常生活において、一方向から見ると全く無駄に感じるものが、発想を変えて異なる方向から見ると、貴重なものになることを時々経験します。これを思い出す時、以下の聖書の言葉を連想します。「家を建てる者の捨てた石、これが隅の親石になった。これは主の御業 わたしたちの目には驚くべきこと」(詩編118編22 - 23節)。



ヒンメリを作成する中で気づかされること

ヒンメリを制作する中で、様々なことに気づかされます。まずは、設計図をもとに、使用する麦わらの太さの仕分けをし、寸法を測って各パーツに切り分けます。その後、麦わらに糸を通して平面

的につないでいきます。糸を強くしつかりと締めすぎると繊細な麦わらは裂け、一方



緩すぎると形が歪んでしまいます。その辺りを微調整しながら、麦わらと糸をつないでいきます。美しいものを作り上げるためには、一つ一つの作業を丁寧にすることが大事です。また、それらを組み合わせさせて完成するには、基本となる設計図はもちろん大事ですが、最後は全体のバランスを目で見て調整することも必要です。その調整を何度も繰り返しながら、作品は完成へと向かっていきます。まさに試行錯誤 (tried and error) の連続です。

作物生産から芸術創作までの過程を体験する

食品加工や芸術創作を学ぶとしても、土からの原料づくりを体験することは、本質を理解する上で大切です。「土一草一牛」と建学の理念にあるように、本学では物質循環を機軸とした多方面の専門性を一貫した流れの中で、融合的に学ぶことができます。ヒンメリプロジェクトはその一例です。各学類の分野において循環型農業、家畜生産、食品加工、環境について幅広い視野から学ぶことができます。物事の真実は、一連の過程を通して初めて深く理解できることを体験する時、以下の聖書の言葉を連想します。「子よ、若いときから教訓を受け入れよ。白髪になるまでに、知恵を見出すように。耕し、種蒔く農夫のように、知恵に近づき、その豊かな実りを待ち望め。知恵を得るには、しばらく苦勞するが、やがて、その実を味わうだろう」(旧約聖書箴言[外典] シラ書[集会の書] 6章18 - 19節)。

今年もアドヴェントからクリスマスの期間に、ヒンメリを礼拝堂に展示する予定です。作物を育てるところから装飾品になるまでの過程を学ぶことが出来る本学ならではのヒンメリをぜひ楽しみにして下さい！

大学礼拝への招待



クリスマス・コンサート（クリスマス礼拝）

酪農学園大学はキリスト教主義大学として、創立以来大学礼拝を大切にしてきました。授業期間中の毎週火曜日の2時限（午前10時40分～12時10分）は大学礼拝の時間に充てられており、学生、教職員が出席できるよう、この時間には授業等が入らないように配慮されています。大学礼拝は建学の精神である「三愛精神」（神を愛し、人を愛し、土を愛する）を経験する実学教育の場です。年に2度のキリスト教教育強調週間、ゴスペル・クワイアのライブ、韓国の

学生たちの特別プログラム、声楽家のコンサート、クリスマス・コンサートなどの多様な機会を提供しています。新入生のみなさんが積極的に出席してくださることを願いつつ、大学礼拝にご招待いたします。



韓国のクリスチャン学生たちとの交流

あ と が き

- ◇多感な青春時代にバーチャルな世界だけに依存せず、生身で多くの事にチャレンジしてください。（T.Y.）
- ◇大学生活の中でたくさんの人や物事に会ってください。（H.O.）

- ◇『出会い』80号（入学式号）をお届けします。本学に入学したみなさんが、かけがえのない《今》を大切に、新たな未来を創造して下さることを願っています。（A.K.）

酪農学園大学キリスト教委員会
〒069-8501 北海道江別市文京台緑町582番地
Tel. 011-386-1111（代表）



酪農学園大学は、2014年度（公財）日本高等教育評価機構による大学機能別認証評価において大学評価基準に適合していると認定されました。



（酪農学園大学公式サイト）